

浅 間 山

○ 概況（平成 15 年 4 月）

火山活動は、やや活発な状態が続いています。

噴煙活動はやや活発な状態が続いており、今年 3 月 30 日の噴火後、7 日 09 時 24 分頃と 18 日 07 時 32 分頃に極小規模な噴火が発生しました。噴火の規模は、火山性微動の振幅や継続時間、有色噴煙の状況から何れも 2 月 6 日、3 月 30 日の噴火と比べて、それ以下か同程度の規模と見られます。

地震活動も、やや活発な状態が続いています。また、4 月 18 日に実施した火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は、500～1100 トン/日と多い状態が続いています。

以上のことから火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も山頂付近に少量の降灰をもたらす小規模な活動は起こる可能性はありますが、現時点では大規模な活動につながるような地殻変動等の変化は観測されておりません。山頂付近では少量の降灰や火山ガス、また風下側の山肌を流下する火山ガスには注意が必要です。

火 山 名	火 山 情 報 名	発表日時	概 要
浅 間 山	火山観測情報第 5 号	7 日 10:20	噴火の状況、規模
	火山観測情報第 6 号	18 日 09:00	噴火の状況

○ 地震活動および噴煙活動の状況

2000 年 9 月から地震活動のやや活発な状態が続いています。1 日あたりの地震回数は 10～30 回程度で推移しています（全て無感地震、表 1、図 1、図 3）。火山性微動は 18 日の噴火に伴い、規模の小さい微動が観測されました。2 月 6 日および 3 月 30 日の噴火に伴い発生した微動と比較しますと、振幅および継続時間（約 2 分）とも、ほぼ同じ規模でした。この他ごく小規模な微動を 11 回観測しました（3 月は 30 日に噴火に伴う微動が 1 回）。

また、遠望カメラによる観測では、噴煙活動はやや活発な状態が続いています（図 2、図 4～5）。

表 1 火山性地震・火山性微動日別回数表（浅間山）

浅間山 (B点)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
低周波地震	16	12	18	12	20	15	20	10	21	17	161	
微動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計	
高周波地震	0	0	0	0	1	0	0	3	0	1	5	
低周波地震	13	9	9	17	19	22	7	28	7	21	152	
微動	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	5	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	旬計	月計
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
低周波地震	4	20	11	9	26	8	11	14	19	18	140	453
微動	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	6	12

短期・日別 地震活動推移 （最近 2 年間の火山性地震の日別回数）

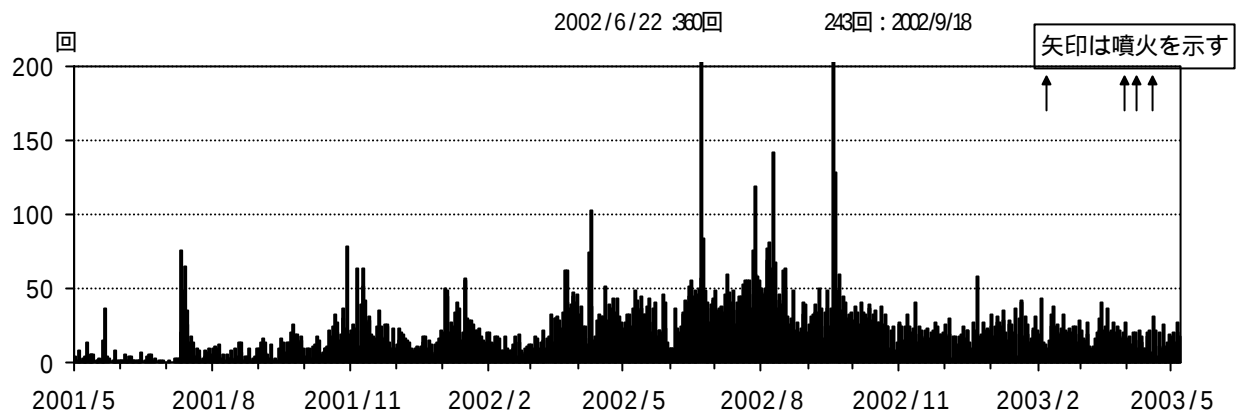


図1 浅間山 火山性地震日別回数(2001年5月1日～2003年4月30日)

短期・日別 噴煙活動推移 （最近 2 年間の日別噴煙高度）

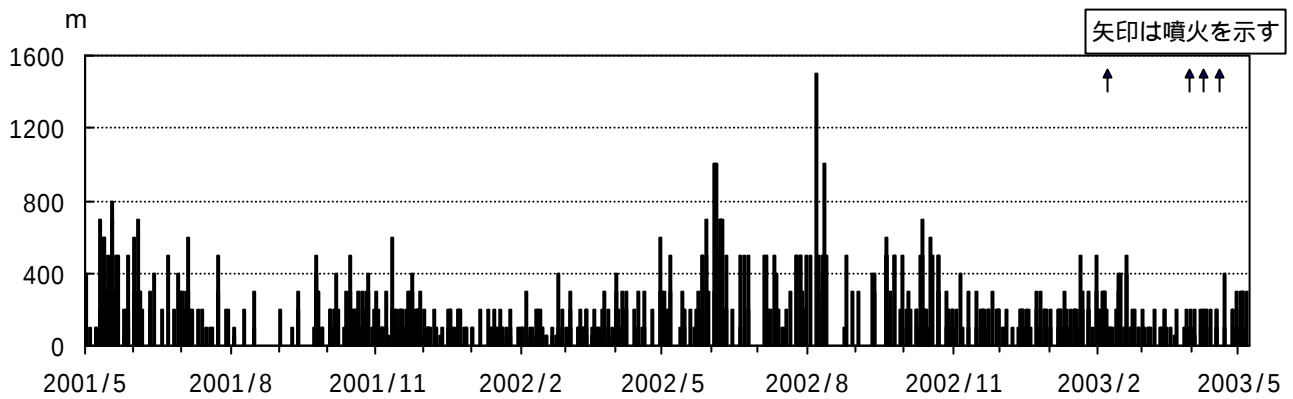


図2 浅間山 日別噴煙高度(2001年5月1日～2003年4月30日)

長期・月別 地震活動推移 （1964 年 1 月以降の火山性地震の月別回数）

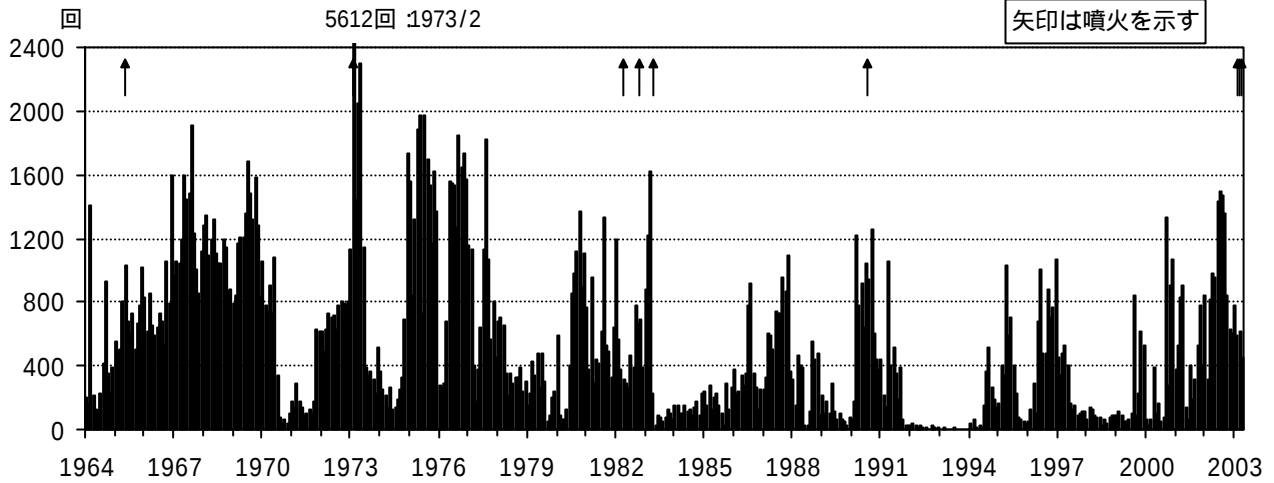


図3 浅間山 火山性地震月別回数 (1964 年 1 月～2003 年 4 月)

長期・月別 噴煙活動推移 （1964 年以降の月別噴煙高度・月別噴煙量）

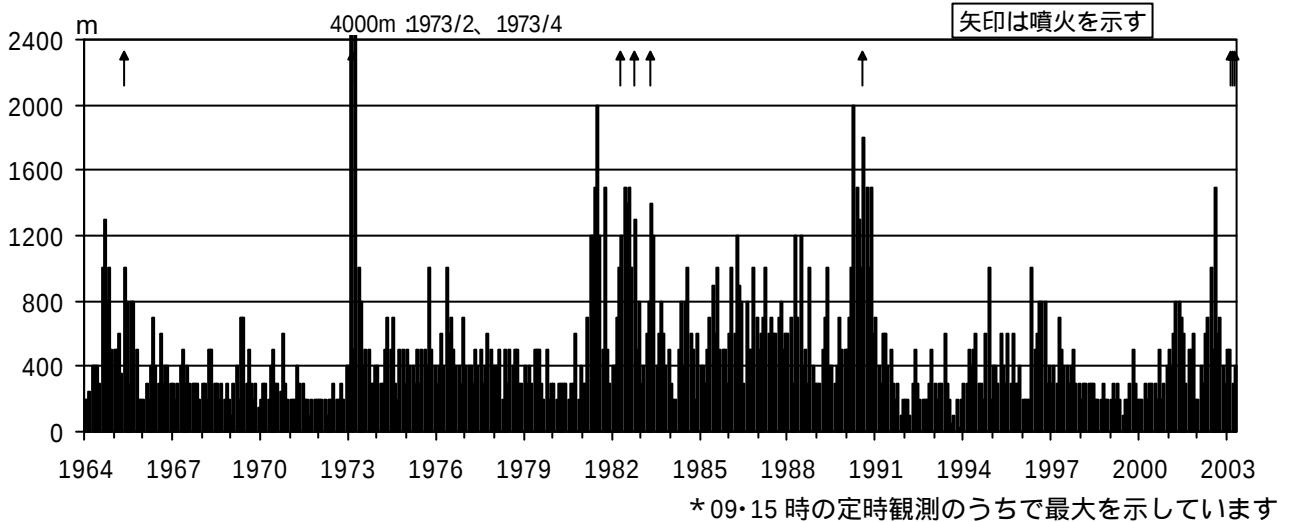


図4 浅間山 月別噴煙高度 (1964 年 1 月～2003 年 4 月)

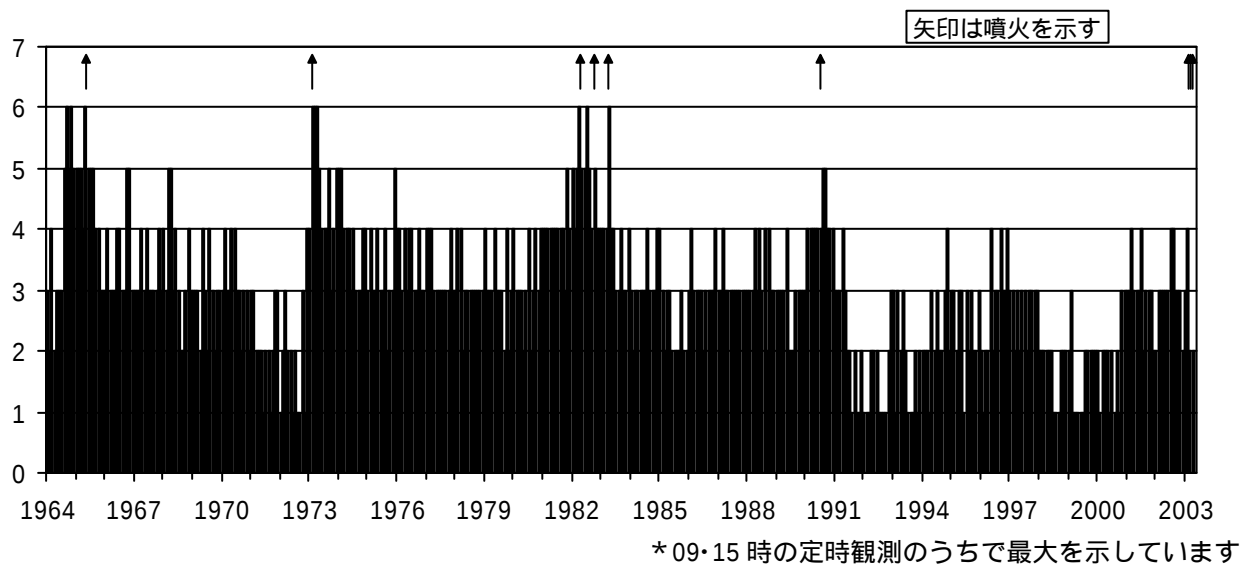
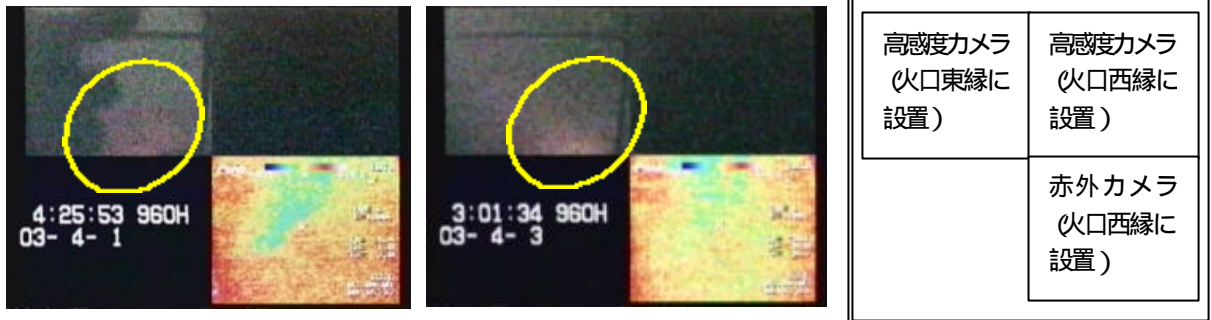


図5 浅間山 月別噴煙量 (1964 年 1 月～2003 年 4 月)

○火口温度の状況

今月は、群馬県林務部設置の高感度カメラおよび赤外カメラのレンズが雪に覆われたことにより、火口底内の様子を十分に把握できないことが多かったものの、時おり火口縁東側に設置した高感度カメラにおいて火口底内が明るくなる様子が確認されました（図 6）。また、山麓の高感度カメラによって噴煙の噴出が一時的に強まったことが確認された 4 月 18 日 03 時 41 分前後において、火口内が一時的に高温になる様子が赤外カメラによって観測されました（図 7）。

これらのことより、依然火口底温度の高い状態は続いていると考えられます。



4 月 1 日 4:30 頃 4 月 3 日 3 時 1 分頃
図 6 火口底内が明るくなる様子

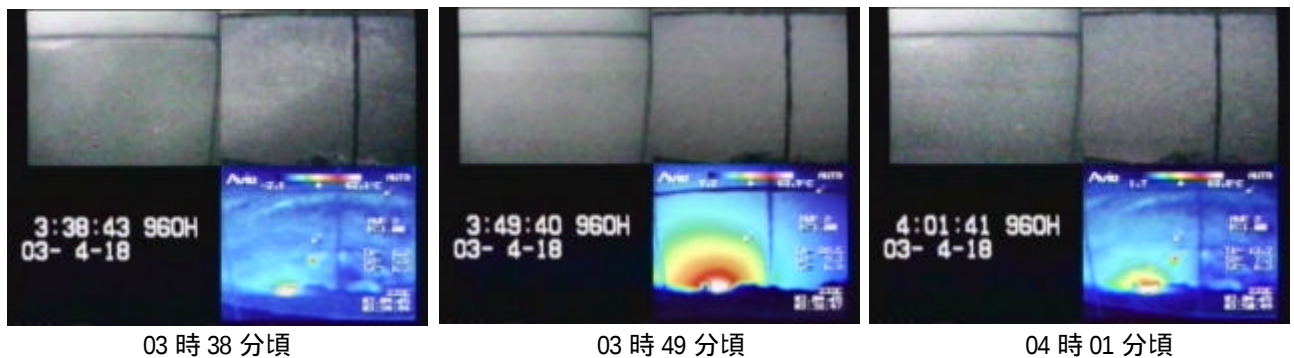


図 7 4 月 18 日未明の火口内の様子

○火山ガスの状況

4 月 18 日に実施した二酸化硫黄の放出量の観測結果は、約 500～1100 トン / 日でした(図 8)。2 月以降変動が大きいものの、依然多い状態となっています。

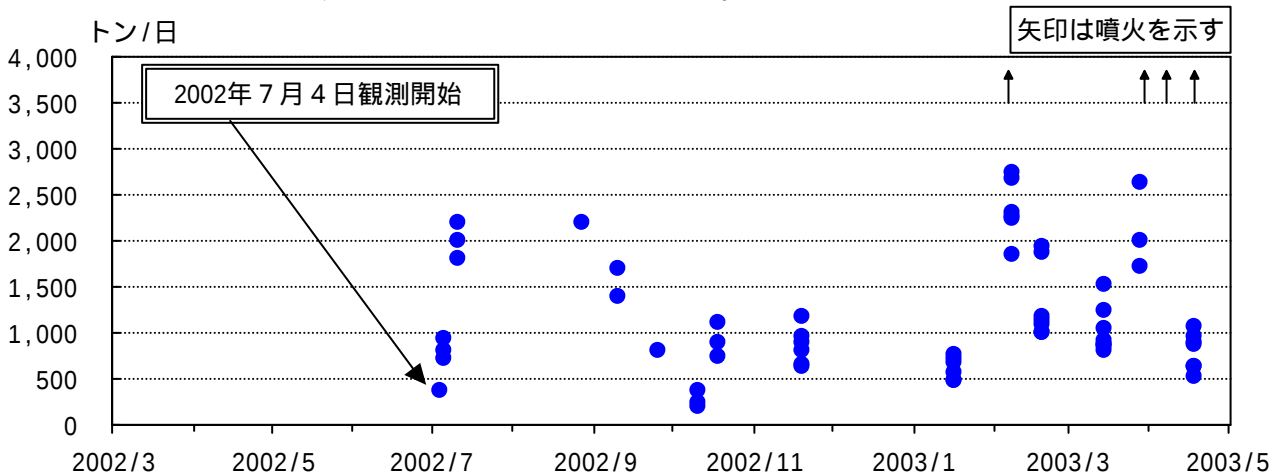


図 8 浅間山 二酸化硫黄放出量（2002 年 7 月～2003 年 3 月）

○ 7 日の噴火

7 日 09 時 24 分頃、極小規模な噴火が発生し、極少量の有色噴煙（灰白色）が火口縁上 200m まで上がり、東に流れているのを確認しました（図 9）。有色噴煙の噴出は、数分後には収まりました。山腹の道路や居住地では降灰は確認されませんでした。浅間山での噴火は、先月の 3 月 30 日以来で、今回の噴火の規模は、噴火に伴う火山性微動が観測されず噴煙も少量だったことから、より小規模とみられます。噴火前後には G P S 及び傾斜計による地殻変動観測では、異常な変化は観測されませんでした。

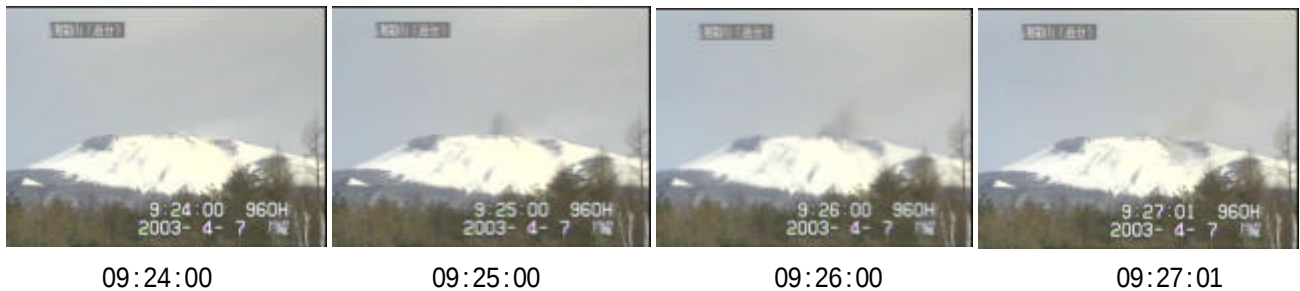


図 9 4 月 7 日 09 時 24 分頃の極小規模な噴火の映像

○ 18 日の噴火

18 日 07 時 32 分頃、極小規模な噴火が発生し、極少量の有色噴煙（灰白色）が火口縁上 300m まで上がり、東北東に流れているのを確認しました（図 10）。有色噴煙の噴出は、数分後には収まりました。山腹の道路や居住地では降灰は確認されませんでした。今回の噴火の規模は、噴火に伴う火山性微動の振幅や継続時間（約 2 分）噴煙の状況から 2 月 6 日および 3 月 30 日の噴火とほぼ同じ規模とみられます。噴火前後には G P S 及び傾斜計による地殻変動観測では、異常な変化は観測されませんでした。



図 10 4 月 18 日 07 時 32 分頃の極小規模な噴火の映像

○地殻変動の状況

GPS観測ならびに傾斜観測では、火山活動によるとみられる変化はありませんでした(図11～13)

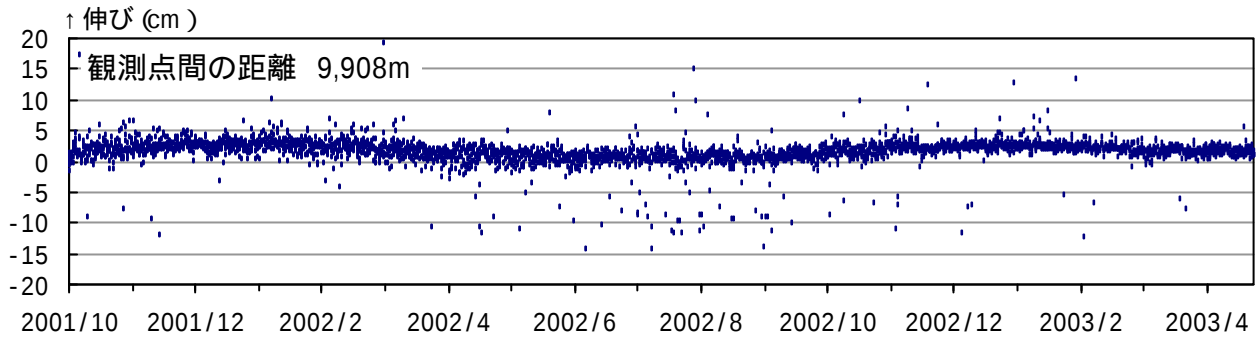


図11 浅間山 GPS観測結果 (2001年10月1日～2003年4月30日)
追分 - 高峰高原 基線長

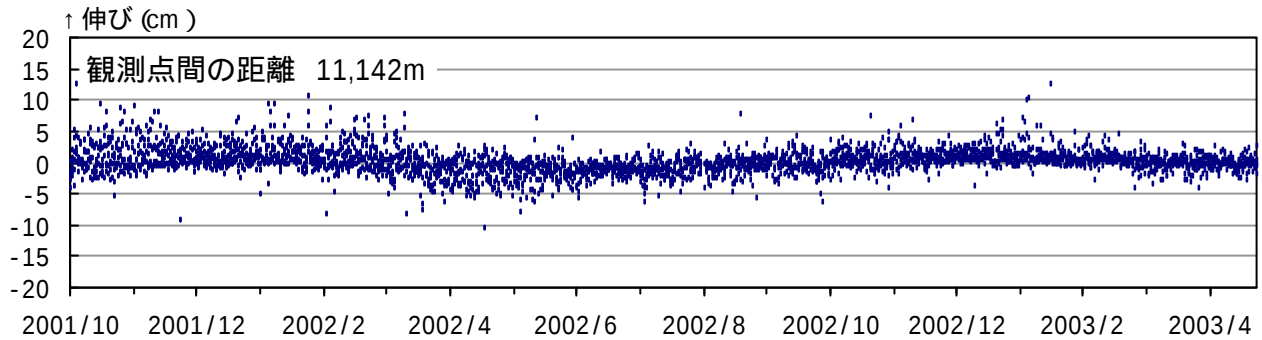


図12 浅間山 GPS観測結果 (2001年10月1日～2003年4月30日)
追分 - 鬼押出し 基線長

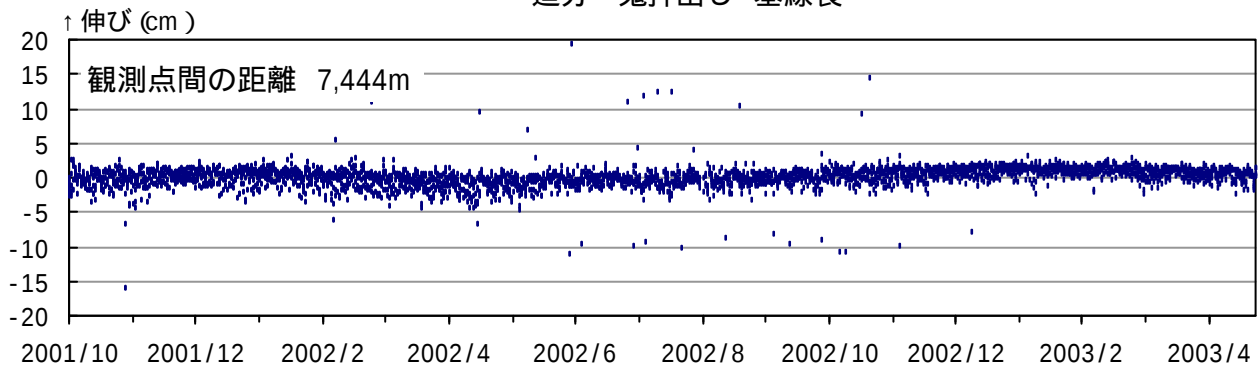


図13 浅間山 GPS観測結果 (2001年10月1日～2003年4月30日)
高峰高原 - 鬼押出し 基線長

